まずは互いの本音から、語り合いを始めましょう

先日、ある地方都市で障害児の親御さんやその支援者に、「障害児（者）の親としてできること（「雑学ＢＮ」の講義等関係（Ⅳ）、2008.02.25.：参照）」と題して話す機会を得た。
また、帰途の新幹線の待ち時間があったので、厚かましく支援者の事業所にちょこっと顔も出した。

後日、次のような初メール（抜粋）をいただくと、短時間であっても想いが伝われば…と真摯に語りかければ、しっかりと聴き留めてくださる方がいることを実感させていただき、自分まで嬉しなり、初メールに感謝の限り！

・阿部さんのように本音で話し、教えてくれる方はなかなかいなくて、今日お話を聞けて嬉しかったです。

・今朝知って足を延ばして駆けつけ、しっかりご講話をきかせていただきました。
一言、御礼を申し上げます。

・阿部さんのお話は、参加者が自分のこととして考えるべきことだという内容だったと思いました。
話の途中で、今の職場の中で自分の立ち位置が不安定で、元気をもらいに行ったのかもしれないと思いました。

・ 先日は、勉強させていただき、ありがとうございました。
自分のしたいことで、給料がもらえる、まれな職業だ、とのご指摘、本当にそうだなあと、改めて幸せを感じました。
もちろん、いろいろなことはいっぱいいっぱいあるのですけれども、その中で沢山のいろいろな立場の方と出会い、教えていただきながら、あーだこうだと言い合いながら、自分なりにこういう社会になればいいなあという野望？？を、１つ１つ叶えていけることもあるのは、この仕事の醍醐味だと感じています。

また、○○○（注：事業所）にまでお運びいただき、すっごくすっごくうれしかったです。
電話一本でも支援側からすることで側にいるよ、と伝えられると研修の中で言われたこと、そのことを身をもって伝えていただいたと、思いました。（先生は電話ではなく、顔を見せてくださいました！）
心からうれしく、ありがたく、勇気の出ることでした。

何がわからないのかさえ、わかっていないんだよなあ私、と、我ながらため息をついたりもしていますが、毎日を積み重ねていきたいと思っています。
今後とも、よろしくお願いします。

阿部幸泰　　（2008 年 2 月 29 日　記）